

都市再生整備計画 事後評価シート
赤塚駅周辺地区

平成28年3月

茨城県水戸市

	指標		従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	赤塚駅西線の車両の走行 時間	秒	559	H27			236			赤塚駅西線の整備により踏切による自動車 交通の遮断が解消されることから、大幅な 走行時間短縮効果が見込まれる。	平成34年3月
	その他の 数値指標2											
	その他の 数値指標3											
4)定性的な効果 発現状況												
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加 プロセス	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり 体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

水戸市赤塚駅周辺地区(茨城県水戸市) 都市再生整備計画事業の成果概要

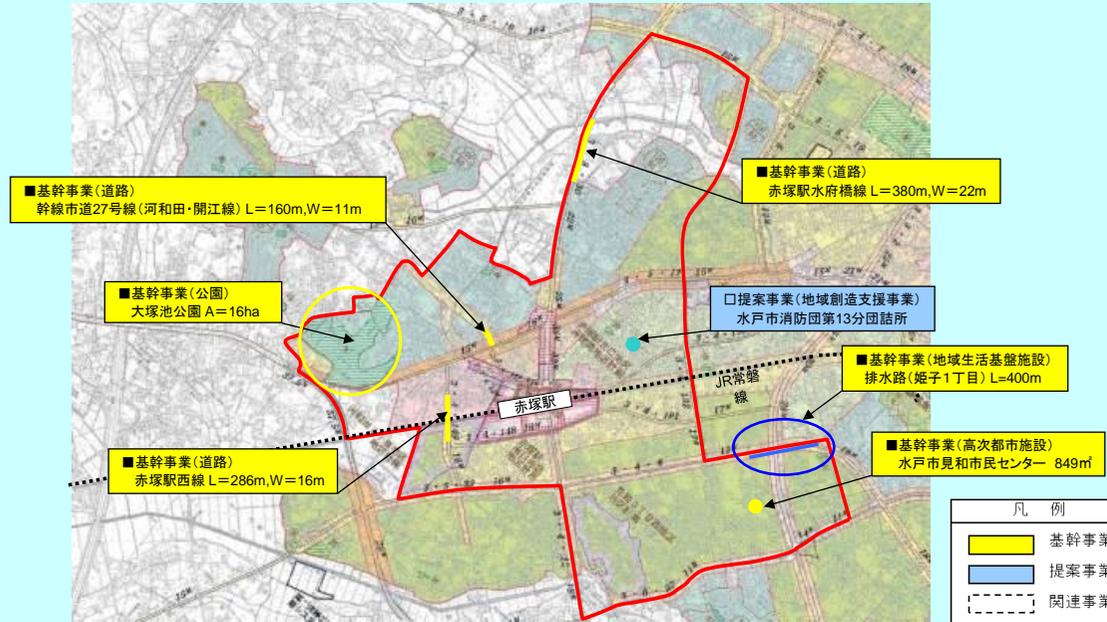
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 拠点機能の充実の促進と、人と人、人と自然がふれあうまちづくりの実現 目標1: アクセス向上による拠点機能の充実の促進 目標2: 人と自然がふれあう空間づくり 目標3: 豊かな地域コミュニティの実現	車両の走行時間	単位: 分	8分16秒 H23年度	7分 H26年度	7分36秒 H27年度
	公園の利用者数	単位: 人/日	1,000 H23年度	1,100 H26年度	1,124 H27年度
	市民センターの利用者数	単位: 人/年	10,000 H23年度	11,000 H26年度	38,806 H26年度
	道路冠水箇所	単位: 箇所	2 H24年度	1 H26年度	1 H27年度



大塚池公園（呼鳥橋）



大塚池公園（園路）



道路冠水箇所



見和市民センター

まちの課題の変化

- ・赤塚駅水府橋線が一部供用開始したことにより、車両の走行時間の短縮が図られた。
- ・周辺を閑静な住宅街に囲まれた大塚池公園の老朽化した施設を再整備することにより、人と自然がふれあうまちづくりの再生が図られた。
- ・市民センター改築により施設施設の老朽化や駐車場不足を解消され、地域コミュニティ活動、生涯学習活動、子育て支援、多世代交流等の推進が図られた。
- ・局地的な集中豪雨における低地部付近の排水路整備により、一部浸水箇所が解消された。
- ・排水路(姫子1丁目)を実施したことにより、大雨時の冠水箇所が1か所減少し、浸水する心配がなくなったと地元住民から喜ばれている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・赤塚駅周辺地区の南北一体化に向け、早急に赤塚駅西線の整備を図る。
- ・大塚池公園内には未だ老朽化した施設が多く、利用者に不便をきたしている箇所があることから、再整備を進める。
- ・市民センターなど地域コミュニティ活動拠点における地元組織の活動支援を行う。
- ・未だ残された浸水箇所があることから、浸水箇所の解消を図る。
- ・安心・安全なまちづくりを目指すため、排水施設の整備は必須であるので、地域を限定しない柔軟な補助事業の創設を望む。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		車両の走行時間 公園の利用者数 市民センターの利用者数	車両の走行時間 公園の利用者数 市民センターの利用者数 道路冠水箇所	事業の追加に伴い、指標を新たに追加する。
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	赤塚駅西線	2,920	L=286m	885	L=286m	用地交渉の難航及びJRとの協議による事業工程の見直しにより事業費減	車両の走行時間の指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
道路	赤塚駅水府橋線	365	L=380m	588	L=380m	建設資材・労働単価の増、及び設計精査による事業費増	車両の走行時間の指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
道路	幹線市道27号線(河和田・開江線)			246	L=160m	平成24年5月に計画変更して追加	車両の走行時間の指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
公園	大塚池公園	140	A=16ha	144	A=16ha	事業費精査による事業費増	影響なし		●
地域生活基盤施設	排水路(姫子1丁目)			336	L=400m	平成25年2月に計画変更して追加設計内容の精査による事業費減	目標を定量化する指標として道路冠水箇所を追加する。	●	
高次都市施設	水戸市見和市民センター	454	800㎡	290	延面積849㎡	工事完了により事業費の精算を行ったため事業費減	市民センターの利用者数に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	

提案事業

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし			
指標1	車両の走行時間	分	国道123号から赤塚駅北口の区間を調査員が車両で走行し、それに要する時間を計測し評価値とする。		8分16秒	H23	7分	H27	モニタリング			モニタリング				●
									事後評価	確定見込み ●	7分36秒	事後評価	△			
指標2	公園の利用者数	人/日	1地点における1日の公園利用者数を調査員がカウンターにより計測し、それを評価値とする。		1,000	H23	1,100	H27	モニタリング			モニタリング			●	
									事後評価	確定見込み ●	1,124	事後評価	○			
指標3	市民センターの利用者数	人/年	年間の各種講座等の開催に伴う利用者数を計測し、評価値とする。		10,000	H23	11,000	H27	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み ●	38,806	事後評価	○			
指標4	道路冠水箇所数	箇所	集中豪雨時における冠水箇所数を計測し、それを評価値とする。		2	H24	1	H27	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み ●	1	事後評価	○			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事後評価時点では、未整備区間があることから目標を達成しないが、整備完了後には目標を達成する見込みである。	赤塚駅西線や赤塚駅水府橋線、幹線市道27号線の道路整備が未完成のため、1年以内の達成見込みはないと予測される。
指標2	事後評価時点では完成に至っていないが、市民の憩いの場である大塚池公園の園路整備及び橋を改修したことにより、利用者の増加が図られた。老朽化した施設を再整備することにより利便性が増し、公園の利用者数において、評価値が目標値を超えた。	—
指標3	見和市民センターは、改築により地域コミュニティ活動、生涯学習活動、子育て支援、多世代交流等のさらなる推進が図られ、各種講座等の利用者数については、目標値を上回った。	—
指標4	集中豪雨時における浸水箇所において、排水路が完了したため、浸水箇所が残り1箇所となり目標値が達成された。	—

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1	赤塚駅西線の車両の走 行時間	秒	赤塚駅南口を出発し、各計測ポ イントを通過するまでに要した時 間を計測する。	-		559	H27	モニタリング		赤塚駅西線の車両の走行時間 を実施することにより、事業効 果が推計で見込まれるため。	指標1を補完する。
								事後評価	確定 見込み ●		
その他の 数値指標2								モニタリング			
								事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標3								モニタリング			
								事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・大塚池公園利用者に対して行ったアンケートでは、整備による公園全体の評価として「よくなった79%、ややよくなった17%」との結果となり、公園整備に伴い、利用者の利便性と満足度が向上した。
 ・都市再生整備計画事業の対象事業となることによって事業の整備が進んだ。
 ・地域防災活動の拠点となる分団施設を整備し、防災に強いまちづくりを進めたことで、快適な生活環境が図られた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業ワーキンググループ	庁内の関係各課(政策企画課、財政課、消防総務課、市民生活課、建設計画課、河川都市排水課、公園緑地課、都市計画課)	平成27年8月27日	都市計画部都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標2		指標3		指標4		その他指標1	
指標名		公園の利用者数		市民センターの利用者数		道路冠水箇所		赤塚駅西線の車両の走行時間	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路・赤塚駅西線	-	市民の憩いの空間である大塚池公園の整備により、利用者の増加につながった。大塚池公園の老朽化した施設を再整備することにより、公園利用者の満足度が向上し、指標の達成につながった。	見和市民センターの整備により、地域コミュニティの活動拠点が強化され、指標の達成につながった。	集中豪雨時における浸水箇所の一部解消により、指標の達成につながった。	◎	赤塚駅西線の整備により、JR常磐線で分断されている赤塚駅南北の交通を強化するほか、幹線市道27号線の整備により赤塚駅北口の交通の強化を図り、赤塚駅周辺地区の交通の円滑化を図る。		
	道路・赤塚駅水府橋線	-							
	道路・幹線市道27号線(河和田・開江線)	-							
	公園・大塚池公園	◎							
	地域生活基盤施設・排水路(姫子1丁目)	-							
高次都市施設・水戸市見和市民センター	-	◎	-	-	-	-			
提案事業	地域創造支援事業・水戸市消防団第13分団詰所	-	○	-	-	-	-		
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	施設の適切な維持管理に努め、自然や水辺環境を生かした再整備をさらに進めるとともに、人と自然のふれあいを促進する。	市民センターにおける各種講座等コミュニティの活動支援を図り、地域コミュニティづくりの強化を目指す。	さらなる浸水被害の発生箇所の解消を図る。	計画的な道路整備の推進に努め、円滑な交通の確保、安全な道路環境の創出を目指す。
-------	----------------------------------------------------------	---------------------------------------------------	----------------------	-----------------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1									
指標名		車両の走行時間									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路・赤塚駅西線	×	事後評価時点では、一部未整備区間があることから、従前値に対する走行時間短縮効果は見られたが、目標値を達成しなかった。								
	道路・赤塚駅水府橋線	△									
	道路・幹線市道27号線(河和田・開江線)	×									
	公園・大塚池公園	-									
	地域生活基盤施設・排水路(姫子1丁目)	-									
高次都市施設・水戸市見和市民センター	-										
提案事業	地域創造支援事業・水戸市消防団第13分団詰所	-									
関連事業											

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×
- △：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたとされる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針(記入は必須)	現在、事業中の赤塚駅水府橋線(堀1工区)が完成することにより目標を達成する見込みである。			
--------------	----------------------------------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業ワーキンググループ	庁内の関係各課(政策企画課, 財政課, 消防総務課, 市民生活課, 建設計画課, 河川都市排水課, 公園緑地課, 都市計画課)	平成27年8月27日	都市計画部都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
拠点開発の効果を高めるため、施行中の都計道の早期完成	赤塚駅水府橋線が一部供用開始したことにより、車両の走行時間の短縮が図られた。	赤塚駅周辺地区の南北地区の一体化に向け、赤塚駅西線の整備を図る。	・大塚池公園のアンケート結果から、整備によって「よくなった」という意見が約80%を占めているが、一方で今後大塚池公園に望むことについては、「駐車場が足りない」という意見が約25%と最も多く、次いで「水質が汚い」という意見が約23%となっている。今後さらに老朽化した施設の改善を進め、利用者の増加が見込まれることから、駐車場の拡大や、水質の改善の対応が必要になる。
大塚池公園において、市民に親しまれる公園としてのさらなる再整備	周辺を閑静な住宅街に囲まれた大塚池公園の老朽化した施設を再整備することにより、人と自然がふれあうまちづくりの再生が図られた。	大塚池公園内には未だ老朽化した施設が多く、利用者に不便をきたしている箇所があることから、さらなる再整備が必要	
地域コミュニティの活動拠点としての市民センターにおいて、老朽化からの施設の改善	市民センター改築により施設の老朽化や駐車場不足が解消され、地域コミュニティ活動、生涯学習活動、子育て支援、多世代交流等の推進が図られた。	—	
集中豪雨時における浸水箇所により地区内アクセス性が低下しており、快適な生活環境の実現	局地的な集中豪雨時における低地部付近の排水路整備により、一部浸水箇所が解消された。	残された浸水箇所の解消	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	大塚池公園において、市民に親しまれる公園としてのさらなる再整備	・大塚池公園をさらに活用してもらうための施設整備	・効果的な施設の維持管理 ・駐車場及びアクセス経路の整備
	地域コミュニティの活動拠点としての市民センターにおいて、老朽化からの施設の改善	・地域コミュニティ活動拠点における地元組織の活動支援	・地域コミュニティの活動支援事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	拠点開発の効果を高めるため、施行中の都計道の早期完成	赤塚駅周辺地区の南北地区の一体化に向け、赤塚駅西線の整備を図る。	・赤塚駅西線の整備
	残された浸水箇所の解消	未だ浸水箇所があることから、浸水対策を進める。	・排水路整備事業
	大塚池公園の残された老朽施設の再整備と駐車場の拡張及び水質の改善	未だ老朽化した施設があることから、施設の再整備を進める。 今後公園利用者の増加を踏まえた整備を進める。	・園路、照明灯及び便益施設等の施設改修 ・駐車場の拡張整備 ・水質改善事業

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・今後は、住民との連携を図り、地域コミュニティの強化を図ることによる快適なまちづくりの実現に向けた検討することが望まれる。
- ・安心・安全なまちづくりを目指すため、排水施設の整備は必須であるので、地域を限定しない柔軟な補助事業の創設を望む。

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	公園利用者数及び市民センター利用者数は、目標値を達成しており、一定の活性化が図られた。	事業期間の正確な予測のもと、計画を策定する。 段階的な整備では、計画ごとに一定の成果が達成されるよう工夫する。
	うまくいかなかった点	-	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	公園利用者数及び市民センター利用者数は、目標と整合が図られた。	計画作成において、目標と整合した適切な事業の選択を行う。
	うまくいかなかった点	目標、指標と事業の関係性に偏りがあった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	-	都市再生整備計画について、より積極的に公表していく。
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	各課と密な連携を取り、目標を意識して事業を実施していく。
	うまくいかなかった点	数値目標が達成される見込みだったため、モニタリングは実施しなかった。担当課が多岐に渡るため、各担当課で計画や目標に基づいて事業を実施しているという意識が薄かった。	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・現在、水戸市中心市街地地区(平成27～31年度)を実施している。事後評価は、最終年度である平成31年度の予定。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに原案を掲載	平成27年11月15日～ 平成27年12月15日	平成27年11月17日～ 平成27年12月15日(4週間)	担当課窓口、郵送、電子メールにより受け付ける。	都市計画部都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報誌に、市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成27年11月15日号	平成27年11月17日～ 平成27年12月15日(4週間)		
説明会・ワークショップ	-				
その他	担当窓口において原案閲覧	平成27年11月17日～ 平成27年12月15日(4週間)	平成27年11月17日～ 平成27年12月15日(4週間)		

住民の意見	<p>・赤塚水府橋線が整備されたことで、北側から赤塚駅の方への移動時間が短くなったと思います。混雑も解消されてきたと思いますが完成していないので、早急に整備してほしいです。</p> <p>・赤塚駅西線は、線路を横断するのに重要な道路で、整備が終われば渋滞の待ち時間も短くすることが出来、移動時間が減ると思うので、一刻も早く整備してほしい。</p> <p>・大塚池公園は白鳥が飛来するなど、市民に親しまれている公園です。公園を整備することで、高齢者の方や小さな子ども連れの親子、ウォーキングを楽しむ人など、あらゆる人が交流できる場になっていると思います。</p> <p>・見和市民センターがある梅ヶ丘地区は、市内で最大生徒数を誇る梅ヶ丘小学校もあって、若い世代を中心に人口がここ十数年で急激に増加しています。見和図書館など幅広い年代が親しめる公共施設はあっても、旧見和公民館は老朽化も激しく使い勝手も悪くなっていました。今回整備した見和市民センターは土足で利用ができるようになって、便利になったと思います。車イスの高齢者の人や障害者等のひとにとっても移動しやすくなって、様々な人が利用しやすい場所になったと思います。</p>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	山田 稔 茨城大学工学部都市システム工学科教授 出井 滋信 財団法人常陽地域研究センター理事事務局長 鹿倉 よし江 水戸女性会議会長	平成27年12月	都市計画部都市計画課	水戸市都市再生整備計画事業評価専門委員規則	独自に設置
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標2について、定性的な満足度をアンケートにより補足し、最終的な目的・目標に近づいているという意見があった。 ・指標1について、車両の走行時間については効果が確認できたと判断できる。ただし、近隣住民や歩行者にとっての生活環境面や安全性等、今後多面的に効果を測ることが望まれるとの意見があった。 ・その他の指標1の設定に関して、ルートの着点を指標1のルートに沿わせたほうが、南北一体化に対する事業効果がより測られたのではないかと意見があった。
	実施過程の評価	・モニタリングや住民参加プロセスなどが実施されていないが、実施過程の評価が住民にとって本来なじみにくいこともあり、やむを得ないと思われるとの意見があった。 ・ワーキンググループを設置して庁内の意見の集約を図ることは、事業実施に大いに寄与しているという意見があった。 ・市民センター整備によって活性化された、地域コミュニティ活動・生涯学習活動・子育て支援・多世代交流については、持続的なまちづくり体制として取り組まれることが望ましいとの意見があった。
	効果発現要因の整理	・庁内が主体でありやや客観性に劣るが、関係各部署が互いに牽制し合っているほか、一部で市民アンケートを導入しており効果測定と効果発現要因分析の透明性は相応に確保されたと認められるとの意見があった。 ・見和市民センターの整備によって、駐車場やセンター内のバリアフリーが図られたことは利用率の向上につながったとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価は、妥当に公表されたと思われる。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・大塚池公園は近隣住民に親しまれており、今後のさらなる再整備を進めるとともに、憩いの場として利用者との協働による環境向上を目指してはどうかという意見があった。また、今後想定される事業として、アンケートの結果をもとに水質の改善・駐車場整備などが挙げられているが、現状値の計測や使い方の合意形成進展を勘案したうえで事業が必要であるか確認することが望ましいという意見があった。 ・目標3に対する市民センターの整備は目標値を大幅に上回っており、成果は良好と認められる。ただし、目標3の本質についてはゴールがないため、地域住民の郷土への愛着の醸成や満足度・幸福度の向上のためにも、住民参加型のソフト事業をおこなうなど、市民センターの活用促進を引き続き図るべきとの意見があった。
	フォローアップ	・指標1を介する都市拠点機能の充実について、未完成の道路整備の完了後にまちづくりの方策の検討が必要との意見があった。 ・未完成の事業については、今回の意見を参考に、事業が完成次第すみやかにフォローアップ実施すべきとの意見があった。
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし	

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画(第5回変更)

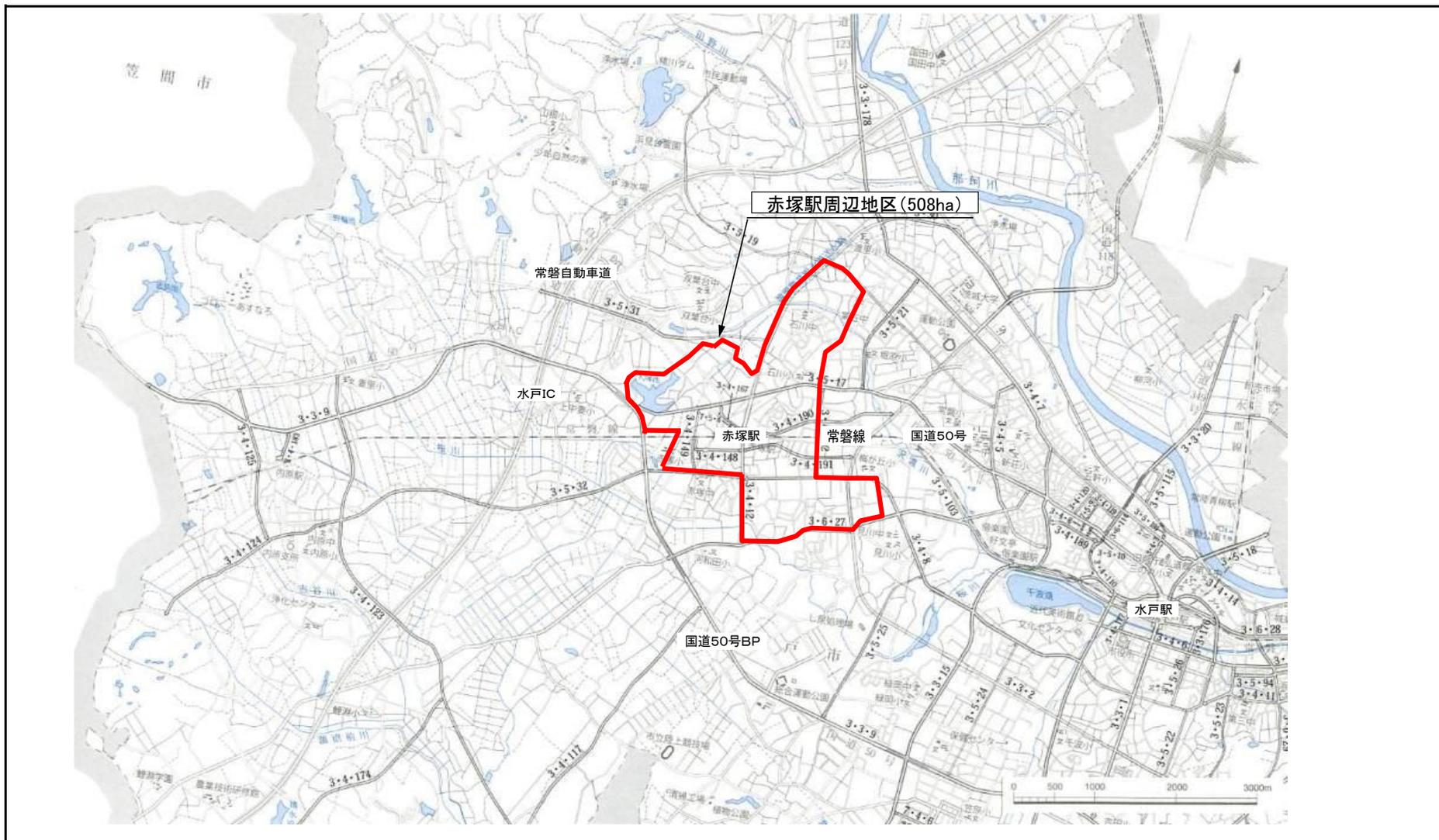
あかつかえきしゅうへん
赤塚駅周辺地区

いばらき みとし
茨城県 水戸市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の区域

赤塚駅周辺地区(茨城県水戸市)	面積 508 ha	区域 赤塚1・2丁目, 姫子1・2丁目, 河和田1・2丁目, 河和田町, 見和2・3丁目, 大塚町, 東赤塚, 石川3・4丁目, 石川町, 堀町, 中丸町の各一部
-----------------	-----------	-----------------------------------------------------------------------------------



都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	茨城県	市町村名	水戸市	地区名	赤塚駅周辺地区	面積	508	ha			
計画期間	平成 23	年度	～	平成 27	年度	交付期間	平成 23	年度	～	平成 27	年度

目標 大目標:拠点機能の充実の促進と、人と人、人と自然がふれあうまちづくりの実現 目標1:アクセス向上による拠点機能の充実の促進 目標2:人と自然がふれあう空間づくり 目標3:豊かな地域コミュニティの実現

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>赤塚駅周辺地区は、本市の西部、JR常磐線赤塚駅の南北に位置し、水戸線開通により木材加工、製粉業など時代の産業に応え発展してきたが、道路等の都市基盤施設が未整備で、建物も老朽化が進み、防災面からも問題を抱えていた。こうしたなか、水戸市第4次総合計画(平成6年)において、赤塚駅周辺地区を本市西部地域の生活拠点と位置づけ、常磐線によって分断される南北の両地区について、一体的な構想による市街地再開発事業、土地区画整理事業及び街路事業の推進により開発整備を進めてきた。</p> <p>また、水戸市第5次総合計画(平成17年)においても、市街地西部地区の拠点として、都市中枢機能の分担や有機的連携を図り、本市や広域都市圏の中核としての一層の発展を目指すとし、市街地再開発事業、土地区画整理事業による拠点開発の効果を高めるため、街路整備等を進めるとともに拠点機能の充実を促進することとしている。</p> <p>このため、平成18年から平成22年まで、まちづくり交付金事業(1期)として、道路等の整備により、拠点開発の効果を高めるための取り組みを行っているが、今後も継続的な取り組みが求められている。(赤塚駅西線、赤塚駅水府橋線)</p> <p>また、大塚池公園についても、豊かな自然と調和したまちづくりをするために、まちづくり交付金事業(1期)から継続した取り組みが求められている。</p> <p>さらに、本市においては、地域コミュニティの活動及び生涯学習の活動拠点として市民センターの機能充実がより一層求められており、1小学校区1施設の整備を進めてきた。</p>

課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点開発の効果を高めるため、施行中の都市計画道路の早期完成等が求められている。 ・ 大塚池公園において、市民に親しまれる公園としてのさらなる再整備が求められている。 ・ 地域コミュニティの活動拠点としての市民センターにおいて、老朽化から施設の改善が求められている。 ・ 集中豪雨時における浸水被害により地区内のアクセス性が低下しており、快適な生活環境の実現が求められている。

将来ビジョン(中長期) <p>○水戸市第5次総合計画 地域の特性を生かした都市のバランスある発展に向け、都市核との機能分担や有機的連携を図りながら赤塚駅周辺地区、県庁舎周辺地区における拠点機能の充実を促進するとともに、内原駅周辺地区をはじめ、交通結節点周辺などの都市開発のポテンシャルの高い地域において拠点形成を図る。</p> <p>○水戸市都市計画マスタープラン 赤塚駅周辺地区は都心の発展を補完する副次核として位置付け、本市の西の玄関口としてふさわしい都市機能等の誘導を図りながら、他の拠点と適切に機能を分担する。</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
車両の走行時間	分	国道123号から赤塚駅北口への車両の走行時間	道路整備による車両の走行時間短縮(アクセス向上性)を把握する。	8分16秒	H23	7分	H27
公園の利用者数	人/日	公園の一日あたりの利用者数	人と自然がふれあう公園の利用者数を把握する。	1,000	H23	1,100	H27
市民センターの利用者数	人/年	各種講座等の開催に伴う利用者数	地域コミュニティの場として市民センターの果たす機能を利用者数により把握する。	10,000	H23	11,000	H27
道路冠水箇所	箇所	道路冠水箇所数	集中豪雨時における浸水被害を数値化し、目標1の達成に資する地域防災施設の整備効果を明確化する。	2	H24	1	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>(整備方針1)アクセス向上による拠点機能の充実の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地区からのアクセス向上により拠点開発の効果を高め、拠点機能の充実を促進するため、施工中の都市計画道路の早期完成を目指すとともに、幹線市道の整備を進める。 ・地区内のアクセス向上により拠点開発の効果を高め、拠点機能の充実を促進するため、排水路の整備を行う。 	<p>[基幹事業]</p> <p>道路事業(赤塚駅西線, 赤塚駅水府橋線, 幹線市道27号線(河和田・開江線)) 地域生活基盤施設(排水路(姫子1丁目))</p>
<p>(整備方針2)人と自然がふれあう空間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区域内の良好な居住環境, 豊かな自然環境と調和したまちづくりのため, 風致公園の再整備を行う。 	<p>[基幹事業]</p> <p>公園事業(大塚池公園)</p>
<p>(整備方針3)豊かな地域コミュニティの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな地域コミュニティ実現に向けて, 活動拠点の再整備を行う。 ・豊かな地域コミュニティ実現に向けて, 快適な生活環境の実現を図る 	<p>[基幹事業]</p> <p>地域生活基盤施設(排水路(姫子1丁目)) 高次都市施設(水戸市見和市民センター)</p> <p>[提案事業]</p> <p>地域創造支援事業(水戸市消防団第13分団詰所)</p>
<p>その他</p> <p>[交付期間中の計画管理について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画の円滑な事業推進のため, 行政内部の横断的な体制としての「まちづくり交付金ワーキンググループ」にて, 進行管理を行う。 	

